



2016.10.1 別科朗読大会

## A先生の新語コーナー



### jiāngshǐqìyè “僵尸企业”

ゾンビ(死に体)企業。経営がすでに破綻しているのに、銀行や政府の支援を受けて倒産を免れ存続している負債企業を指す。その多くは国有企業といわれ、中国の経済発展にとって大きな負担となっている。中国は今後、分類指導、企業別施策を強化し、資産再編、財産権譲渡、閉鎖・破綻などの多様な方式を通じ、「ゾンビ企業」の経理・処理を加速させる方針。経営性欠損企業については2017年末までに赤字額の顕著な低下を目指す。  
(A)

今年度、2002年を最後に行われていなかった日中学院主催の別科短期留学を14年ぶりに行いました。前は、北京の人民大学への短期留学でしたが、今年は、初めて天津外国語大学への短期留学の開催となりました。多くの別科生の方々に参加して頂くことができました。



## 別科短期留学雑記 別科担当 胡興智

9月のシルバーウィークを利用して、28名の別科生の方々と一緒に天津外国語大学国際交流学院での六日間留学研修に行ってきました。学校主催の別科短期留学は、10数年ぶりに行われましたが、出発したかと思う間もなく、もう日本に戻るといふ正真正銘の「短期留学」でした。

天津にいる間、毎日、朝8時から11時40分まで授業があり、午後は博物館や古文化街の見学や京劇鑑賞、餃子作り、夜は歓迎会、日本語科の学生との交流会、遊覧船で天津夜景観賞、歓送会、更に、有志による開放式グラウンドでの市民ウォーキング・広場ダンスへの参加、カラオケ大会開催(有志)と、予想以上の充実したカリキュラムで、最高齢78歳の方も含め、参加された皆さんのエネルギー全開の六日間でした。

到着二日目の朝から幸先よく、吸い込まれそうな青空、スタートにふさわしい朝でした。

「故郷の青空見ればわが心隅々にまで爽やかさ充つ」

九時から、国際交流学院のトップも参加して下さり、盛大な開講式が行われました。

その後、クラス分けの筆記と会話の試験がありました。一心不乱に試験用紙に向かう姿には、これから学ぶぞという別科生の気概が感じられ、母校での張りつめた空気が懐かしかったです。

筆記試験の後、先生と一対一の会話試験では、雰囲気も一変し、久しぶりに会った古い友人が昔話に花を咲かせているような方もいますし、歌まで披露する方もおり、先生も別科生も楽しそうでした。年齢も貫禄も若い先生



には負けていません。誰が先生なのか分からない方もおられましたが、その微笑ましい光景も「教え合い、学び会う」という生涯学習社会の縮図とも言えるでしょう。

「留学の初日を迎へワクワクとテストに励む  
少女少女」

「クラス分けテスト用紙を捲る音聴く度思ふ  
吾も受けたし」

「捲る音微かに響く教室の一角に立つ吾も  
ドキドキ」

「先生か学生かはてお互ひの話題の尽きぬ  
会話の試験」

試験の後、「学生食堂探検」、「昼食サバイバル」というミッションが実行され、それぞれの戦利品である「牛肉麺」や「包子」を堪能しながら、談笑している姿も忘れられない思い出の一つとなったことでしょう。

その詳細についても「大写真」する必要がありますと思いますが、体験者の方に機会を譲ることにしましょう。

三日目の夜、事前の下見をした「民園」運動場の夜景観賞に有志で行って来ました。多くの市民が開放式のグラウンドでウォーキングしている光景の素晴らしさは、うまく表現できません

が、羨ましいことこの上なし。いつか日中間もより多くの人々がこのような壁のない交流ができたらいいなあと願わずにはられません。

広場ダンスに飛び入り参加の方もいましたが、ダンスの先生の傍にいと全く気が付かず、「后面后面!」と注意されても耳に届かず、踊りに夢中で踊っておられました。

「先生が誰かは知らず踊りつつ広場ダンスの  
飛び入り参加」

「ダンスより今を生きゆく糧を得り今日も  
踊りて明日も踊らむ」

「グラウンドに溢るる笑ひ星屑の笑みを誘ひて  
今宵踊れり」

「気が付けば吾の笑ひも聞こへたり光も影も  
輝く今宵」

(続き)



## 本科(2年制専門課程)説明会を兼ねた中国語無料公開講座

大学編入を目指す方に! 中国語を身につけ新たな仕事を目指す方に! 本科で専門士を取得すると、中文科の大学編入が可能です。学士の資格が欲しい、大学等を中途退学したがもう一度大学で学びたい、中国語や中国関係の分野を極め仕事に生かしたいなどを、本科で学んで実現させませんか? 以下の日程で、本科入学希望者を対象に発音を中心とした無料公開講座(オープンキャンパス)を開催します。後半には、本学院日本語科に学ぶ中国人留学生や本科在校生との交流会も予定しています。お気軽にご参加下さい。

### 日程

- ①2016年11月12日(土) ご希望のお日にちを、
  - ②2017年 1月28日(土) お電話もしくはHPから
- お申し込みください。  
Tel:03-3814-3591

### 時間

9:30 ~ 13:00

発音公開講座及び在校生、  
留学生との交流会



### 本科試験日程

- 1次 受付: 11/9 (水) ~ 12/2 (金) 試験: 12/4 (日) 12/6 (火)
  - 2次 受付: 12/7 (水) ~ 1/20 (金) 試験: 1/22 (日) 1/24 (火)
  - 3次 受付: 1/25 (水) ~ 2/17 (金) 試験: 2/19 (日) 2/21 (火)
  - 4次 受付: 2/22 (水) ~ 3/16 (木) 試験: 3/18 (土) 3/21 (火)
- 以降補欠入試等実施予定です。

# 拉萨旅行

西川晃一郎（別科夜間週2卒業生）



「馬鹿と煙は高いところが好き」といわれますが、旅行好きの私はかねがね一生に一度は世界鉄道標高最高地点海拔5017メートルを走る青藏铁路に乗って西藏拉萨のポタラ宮殿（海拔3700メートル：富士山頂3676メートルとほぼ同じ階段は350段）に行きたいと思っていました。海拔0メートル地点と比べると拉萨（海拔3640メートル）では空気中の酸素濃度は半分強の65%しかありません。当然、血液中の酸素は不足し、頭痛や食欲不振、むくみ等いわゆる高山病の症状が出るといわれています。来年には70歳の大台を迎え、視力、聴力はじめ体のあちこちでガタが出始めた私は、同じく旅行好きの息子が夏休みになるのを待って、今年こそはと二人で拉萨旅行に出かけました。

頭の片隅に残る「学汉语」のフレーズを総動員しながら、いつも通りガイドさんなしで北京、兰州を経由して、兰州から西宁經由拉萨行きの鉄道に乗りました。雨季の8月はラサの旅行シーズンで軟座卧铺票はとっくに売り切れ。硬座卧铺票しかとれません。兰州-拉萨は上段522元（8000円程）。西宁から高地用の空調設備（新空調）のついた列車に乗り換える時、乗務員と公安が外国人要入境签证拿出来。旅行手続きはすべて息子に任せていましたが入境签证の職業欄を見ると、私はなんと司机、息子は工程师の筈が美容师。没办法。そのまま乗車。私は上下三段、二列のコンパートメントの一番下の寝台で眠りにつきました。朝起きてみるともはや列車は高度4500メートルのチベット高原を疾走中。お目当ての鉄道世界最高地点の標識を見逃すも標高5068メートルの唐古拉站を通過。なんとトイレの窓があいていたので特別空調設備の効果ゼロ。高度4500メートルの高さでは、69歳の高齢者は少し車内を動くだけで激しく息切れ。深呼吸しながらじっと寝台で横になり、遠くの雪山を眺めるだけ。いまどの辺を走っているのかと持参したアウトドアGPSやIPADの地図ソフトで高度や位置を測定。それに引き換え、乗務員は大声で駅弁や瓜などを売り歩いて実にタフ。拉萨に近づくにつれてやっと元

気を取り戻し同じコンパートメントの蒙古族のおじさんや学生とボソボソ

と聊天一下。どうして拉萨に行くのか、なぜ中国語が喋れるのか、日本の相撲はモンゴル人が横綱とか。途中で乗務員が来て何か聞くが听不懂。これがまずかったと判ったのは予定より3時間半程遅れてやっと拉萨站到いてから。

拉萨では私の名前を書いたプラカードを持ったインド族の导游がお出迎え。ラサには日本語を話せる导游はおらず（？）英語だけ。终于到了拉萨！と思ったら、その周りにズラリと10名程の私服公安もお出迎え。导游が英語で「持参されたスーツケースのことで質問があると言っています。」まるでアメリカ映画を見ているような公安警察のバッジを見せられ、ビデオカメラを回されて多数の公安に取り囲まれながら拉萨站内の公安詰め所にご同行。幸い导游の英語は上手で、彼が中国語で説明している内容もよくわかりまず一安心。大変緊張した顔つきの若い公安係官の指示で大きなスーツケースを開けて下着を含めて一品一品全品チェック。それをビデオカメラで入念に撮影。緊張しているかと聞かれたので、そりゃあ突然調べられたので緊張しているが、何も疑われるようなことはないから何の心配もしていないと英語で回答。更に、カメラで撮影した写真を全て見せるようにということで一つ一つ写真を説明。このあたりで、どうやらスパイ活動を疑われているのかな？と。中国では警察や軍関係の写真を撮ってはいけないと聞いていたのでもちろん何も問題の写真は出てこない。息子のデイバッグの中からこの春に台湾に行ったときの観光地の切符が出てきたので公安はいったんざわめいたが上司らしい年配の女性が問題ないと言一蹴。それからは、なぜ台湾に行った、どれくらい行った、中国には何度くらい来た、何のために来た、誰と会ったというような質問攻め。淡々と、仕事や観光旅行、中国語の短期研修で北京、上海、台北にしばしば行っている。会社の関係者だけでなく中国政府の関係者とも会うことがある、などと回答。

最後には日本人なのに、なぜおまえは英語が喋れて、中国語も喋れるのかとの質問。中国語は東京の日中学院で習ったから喋れるようになった。在東京の日中学院、你知道吗？と聞いたら不知道!とつれない返事。延々2時間過ぎたあたりで年配の公安が、トイレに行きたかったら行っておいでと。若い公安二人が同行し拉萨でつれション。一人が英語で「おれはお前の会社の名前を知っている。お前の会社の製品でお勧めはなにかい？」と聞いてきたので「なんでもオススメだけど、特にオススメはこれこれ」と会話が始まる。トイレから公安室に戻ると責任者らしき女性と年配の公安が何かの書類を覗き込んで相談中。相談が終わったら、「これも通常の調査 (routine check)、特別な問題があるからではない。」とのお告げ。当方も「お仕事、ごくろうさん (Understand this is your business)」と深夜10時過ぎの人気のなくなった拉萨站をそそくさと後に。69歳の爺さんがなぜ公安が心配するようなことをすると思ったのか、いまでも不思議な気持ち。息子によれば既に列車の中で、あの爺さんはお前の何か？あのスーツケースに何が入っているかと英語で聞いてきた人がいたので変だなあと思っていたとのこと。

翌日は、ポタラ宮と大昭寺 (ジョガンジ)、西藏博物館を参観し、バルコル (八角街) でチベット料理に舌鼓。

たった一日の滞在でしたが、次のことが印象に残りました。

1. 赤ちゃんのガラガラの様なマニ車を回し、大きな数珠を繰りながら、時計回りにポタラ宮や大昭寺の周りを回る多数のチベット人の巡礼の存在。朝早くから巡礼者でラサの中心部は溢れていました。仏教の輪廻の教えを深く信じて来世の為に祈る人々の姿がありました。チベット仏教大本山のラサの大昭寺では五体倒地という全身を投げ出して巡礼をするチベット人も見ました。导游によれば、昔に比べれば、バスで簡単に拉萨にチベット各地から巡礼に来られるので巡礼者の数は激増しているとのこと。チベット人は独自のチベット暦を守り、チベット仏教の教えに従った生活を守っているとのこと。日本でも仏滅や大安があるよと答えました。たまたま市内観光をした日は肉食が禁じられた日で导游は肉食を断ち、お豆が中心のお昼。私は当然ヤクの肉などチベット料理を注文。
2. ラサ市は鉄道駅のある南の方面や更にその先の飛行場方面にどんどん広がっています。一昔前は原っぱだったところにピカピカの高層建築が林立。看板を見るかぎりみな漢人資本。ラサ市内の新しいお店も漢人資本のお店。チベット人が経済的にかすんでみました。
3. 新疆ウイグル自治区とともに西藏自治区は外国人の立ち入りに入国签证が必要。治安上も2008年のチベット騒乱事件以降、中国政府による厳しい警戒態勢の下にある。特にお隣の新疆ウイグル自治区では爆弾テロ事件が頻発し、2008年と同じくオリンピック開催時期という中国政府にとっては特にセンシティブな時期ということを拉萨到着後知る。已经来不及! 那样的话、日本語を話す観光客に一人も会わなかったし、欧米人観光客の姿もそれほど多くない。圧倒的に中国人の人山人海! なのに外国人観光客は导游の同行が不可避。主要な観光地にはいたるところに公安警察や武装警察の検問所。もっとも、検問所では係員はおしゃべりに夢中。写真の撮影は特に导游が神経質で許された場所で許された角度から写真を写せるだけ。もっとも至る所に検問所や警察、軍の施設や車両があるから殆どのところは写真が撮れない。そういえば1970年代の中国やソ連がこんな状況だったなあ。でも大多数の中国人観光客は携帯やカメラで写真を撮りまくっている。なんか変な感じ。导游は問題のある写真が飛行場の検問で見つかったら大問題になり导游も罰せられると真剣な顔で警告。でも拉萨机场での検問は他の中国の飛行場と同様なチェックで終了。
4. 車窓から見ると4500メートルの西藏高原でもバスケットコートがあり、3600メートルの拉萨でも陸上競技場やサッカー場が見えた。チベットで一番流行っているスポーツはバスケットとか。マラソンは無理だが、ランニングブームはチベットにも。富士山の山頂でバスケットをすると心肺能力がものすごく高まる筈だが海拔0メートルに降

りと酸素の過剰摂取で酩酊状態になるとのこと。过犹不及。丁度リオ五輪が開催中だったので导游にチベットから何名リオ五輪に参加していますか？と聞いたところチベット人には旅券が出ないのでオリンピックにはだれも参加していませんと。导游の英語がアメリカなまりでとても流暢だったので英語はどこで勉強したのですかと聞いたところチベットでインド政府の支援で開いている英語学校で勉強しただけで、外国には一度も行ったことはない。真的吗？

三日目は拉萨机场から中国民航機で隣国NepalのKathomanduに向かいました。飛行機の窓から雲海の中に聳え立つエベレストが見えて、あっという間に再び自由の国に戻ってきました。私の年齢からいって再見拉萨！という言葉は口から出ませんでした。ただ、チベットの人たちが現在のように戒厳令がひかれたような下での

生活ではなく、チベット人として自らの幸せを自由に追求できるような日々が一日も早く来ることを祈るのみでした。

ラサで中国語を話そうと思ったのも大きな間違いでここはやはり英語で旅行するところだったという思いとともに。

2016年9月16日



## 図書室 だより

### 試験に備えて

今月の中検試験が実施されます。試験は苦手という方も多いと思いますが、試験に挑戦し、モチベーションを強化するのも学習効率を上げる一方法かもしれません。



●『中検準4級問題集』2016年度版 第85回～第87回 CD付 光生館 この他、4級～準1級・1級問題集まで全5冊

●『中検2級試験問題 [第86.87.88回] 解答と解説』2016年度

版 MP3付 白帝社

中検試験問題 [解答・解説] シリーズとして、準1級・1級～準4級まで全5冊

●『キクタン中国語【初級編】中検4級レベル』CD付 株式会社アルク

この他に各級に対応したものの5冊と、中級レベ

ル (中検2級) の【慣用句編】があります。

●『出るとこだけ！中国語検定3級合格一直線』長澤文子・盧尤著 (共に本校講師) 株式会社アスク 他に準4級・4級もあります。

●『合格奪取！中国検定準1級・1級トレーニングブック一次筆記問題編』

戴暁句著 (本校講師) 株式会社アスク 準4級から各級あります。

他にも試験対策用の資料を沢山配架しておりますので、足をお運び下さい。

### 《寄贈》

下記の方々よりご寄贈頂きました。ありがとうございました。

●江口洋子様 (執筆者) より『な-るほど・ザ・台湾2016.3』他4冊

●白水社様 (出版者) より『中国語の入門 [最新版]』山下輝彦著

●徐静波様 (著者) より『静観日本』

●中村友彦様より『中国映画の熱狂的黄金期』



# 11月の日中学院

日	一	二	三	四	五	六
		<b>1</b> ●本科・日本語科 文化祭代休	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b> ●本科 推薦入試 受付締切	<b>5</b>
<b>6</b> ●本科推薦入試 ●日曜中国語③	<b>7</b> ●日本語科定期 試験(～11日)	<b>8</b> ●本科 推薦入試 合格発表	<b>9</b> ●本科 1次募集 受付開始	<b>10</b>	<b>11</b>	<b>12</b> ●本科生のための 公開講座 ●中国文化之日
<b>13</b> ●日曜中国語④ ●留学試験	<b>14</b> ●倉石先生生日	<b>15</b>	<b>16</b>	<b>17</b>	<b>18</b>	<b>19</b>
<b>20</b>	<b>21</b>	<b>22</b>	<b>23</b>	<b>24</b>	<b>25</b>	<b>26</b>
<b>27</b> ●中国語検定試験	<b>28</b>	<b>29</b>	<b>30</b>			

●12月の日中学院  
 ・2日…本科1次試験受付締切  
   別科公開講座(入門/基礎) 18:45～  
 ・3日…本科研究科学内推薦面接  
 ・4日…本科1次入試

・4日…日本語能力試験  
 ・6日…本科 1次試験合格発表  
 ・7日…本科 2次募集受付開始  
 ・10日…別科公開講座 入門/基礎13:00～  
 ・14日…本科定期試験(～20日)

・20日…本科・日本語科2学期最終日  
 ・21日…本科・日本語科冬休み開始(～1/9)  
 ・22日…別科263期授業最終日  
 ・25日…閉門(～1/5)

## ○別科公開講座今後の予定

### ☆入門コース「あいさつ表現で学ぶ中国語」

これから中国語を始めたいとお考えの方を対象として、  
中国語の発音と簡単な表現を学習します。

### ☆基礎コース「接客表現で学ぶ中国語」

週2回で半年、週1回で1年程度中国語を学習した方の  
コースです。

※入門コース・基礎コース 共通

- ①12月 2日(金) 18:45～20:45
- ②12月10日(土) 13:00～15:00
- ③1月 6日(金) 18:45～20:45
- ④1月 7日(土) 13:00～15:00

### ☆文化の日公開講座「中国語に触れてみよう！」

これから中国語を始めたいとお考えの方を対象とした、  
1時間の体験講座です。

⑤11月12日(土) 16:00～17:00

①～⑤への当学院在校生や以前に参加された方はご遠慮ください。

ご参加を希望の方は、日中学院まで  
お申し込みください。

電話：03-3814-3591

e-mail: info@rizhong.org



## ◇学院報創刊 500号◇

学院報は今月号で500号を迎えることができました。1号はいつ発刊されたのか、と思い創刊号を探してみました。すると1970年10月に「100号創刊」として発行されていました。1号からではなく100号を創刊号としたのは、なんとか頑張って1号(100号)までは、との思いだったのでしょうか。

それから約12年後の1982年2月に「最後」の1号が発行されました。次の101号はまたそれから14ヶ月後の1983年4月に、そして今日にいたっています。(副学院長 鈴木繁)

## ◇耳目◇

○「竹中教育基金」に寄付金をいただきました。本科第16期生の山田千尋同学から10万円の寄付金をいただきました。ありがとうございます。

○訂正-9月号「倉石賞」受賞者一覧に誤りがありました。正しくは以下の通りです。

(誤) 白戸吾夫 → (正) 白土吾夫(敬称略)

## ◇編集後記◇

すっかり、秋らしい気候になってきました。小石川後樂園の美しい紅葉が楽しみです。